

平成 26 年度 授業評価アンケート総括

(1) 目的

本年度より全学的なカリキュラム改編が行われている。初年度にあたる今回の授業評価アンケートは、新カリキュラムの PDCA の一環として、その基礎データ収集のために中期的な計画のもとに 1 年生（新カリキュラム）を対象に実施をした。その結果を活かし、科目配置の順次性・網羅性・分量・レベル等の適正化や領域内・領域間相互の連携など、領域単位での組織的・主体的なカリキュラムのブラッシュアップを促し、大学全体の教育の質的向上に繋げることを目的としている。また、個別授業に関するデータは、各担当教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽を行うとともに、教員一人ひとりの更なる教育力の向上に活用されることを望む。最終的には、それぞれの改善点を各授業のシラバスに反映し、教育に具現化し実行していくことが肝要となる。

(2) 対象学年

1 年生

(3) 対象科目

総合領域

「共通教育センター関連科目（前期）と総合領域の専門科目（前期）」

「共通教育センター関連科目（後期）と総合領域の専門科目（後期）」

「他領域の専門科目（前期）」と「他領域の専門科目（後期）」

イラストレーション領域・美術領域・メディアデザイン領域・空間デザイン領域

「共通教育センター関連科目（前期）と領域の専門科目（前期）」

「共通教育センター関連科目（後期）と領域の専門科目（後期）」

(4) 実施期間

前期開講・後期開講科目ともに下記の期間に実施

2014 年（平成 26）12 月 22 日（月）～2015 年（平成 27）1 月 9 日（金）

(5) 実施形式

マークシート形式および自由記述

(6) 履修者数・回答者数・回収率

前期開講科目	履修者数 2286 人	回答者数 1396 人	回収率 61.1%
後期開講科目	履修者数 2213 人	回答者数 1378 人	回収率 62.3%

(7) 分析の観点

各設問に対する分析の観点は下記の通りである。

- ・設問1：教員とのコミュニケーション
- ・設問2：授業運営（計画）の妥当性
- ・設問3：教育方法
- ・設問4：教員の熱意
- ・設問5：難易度（レベル）
- ・設問6：達成感
- ・設問7：学生ニーズ
- ・設問8：総合評価

設問1～4は、主に個別授業の改善等の検討材料、

設問5～8は、主にカリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証等を目的としている。

(8) 分析方法

- ・各調査対象科目担当者へフィードバック（個別科目の集計結果・平均値を配布）し、個別授業の改善に向けた検討材料としてもらう。また、結果に対するコメント記入を依頼（H26年3月回収済み）。
- ・関連する科目群ごとに、担当する領域・共通教育C単位で、集計結果と上記科目担当者コメントを基礎資料として共有し、設問5～8に対して分析を加え、カリキュラム推敲の検討材料とする。また、分析結果等を所定シートにてFD委員会に提出（H27年9月実施予定）。
- ・ただし、カリキュラムツリーの改善を目的とするので、単年度だけではカリキュラム改善に直結する結論は導きにくいと予想する。経年で比較しながら調査結果を活用していくことも必要である。

(9) 本調査活動の総括

- ・昨年度、調査設計等が遅れたため、前期科目も含め、調査実施時期が後期末の1月になったことは反省される。
- ・授業に対する総合評価（設問8）の全科目の平均値は、前後期とも3.8であった。これは、全体として概ね良好な結果と捉えられる。
- ・領域科目は、概ねさらに高い評価となったが、これは旧カリから継続している科目が多く、その分洗練度が高いことに起因するものと考えたい。
- ・設問1は教員とのコミュニケーションのしやすさを問うものであったが、設問文からは「学生側からの質問の有無」を問うものにも読み取れ、やや低い数値に留まった。次回からは設問文を見直す必要がある。
- ・前期・後期でアンケート対象科目を設定したため、クォーター制をとる科目（ファウンデーション科目等）の評価が読み取りにくいものとなった。
- ・これらの調査設計・実施方法への反省と、分析結果の実効性を省みながら、調査の有効性の改善を図りながら、中期的に調査を継続し、個別授業の改善とカリキュラムの質向上を推進することが重要である。

2014年度前期 授業アンケート結果集計

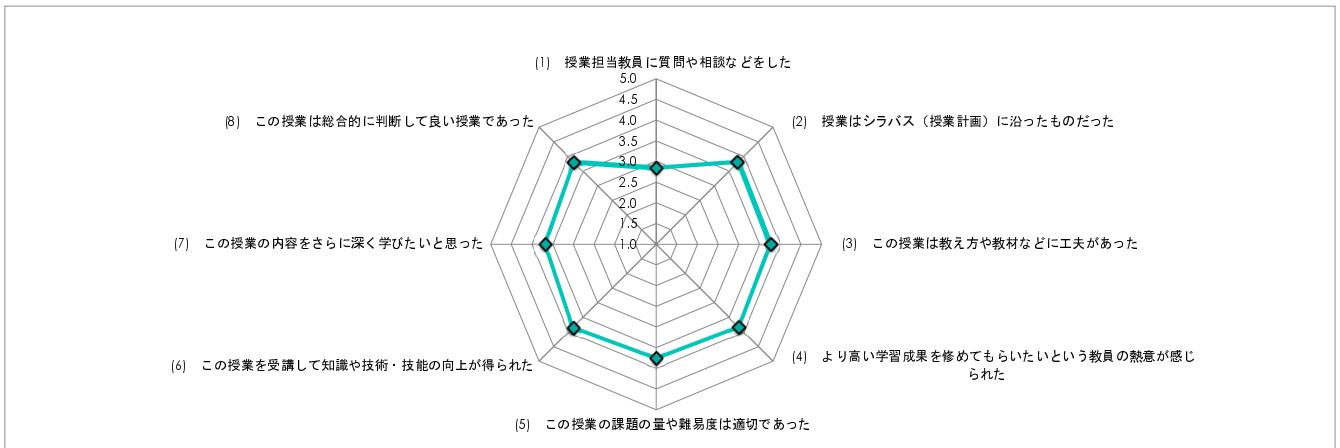
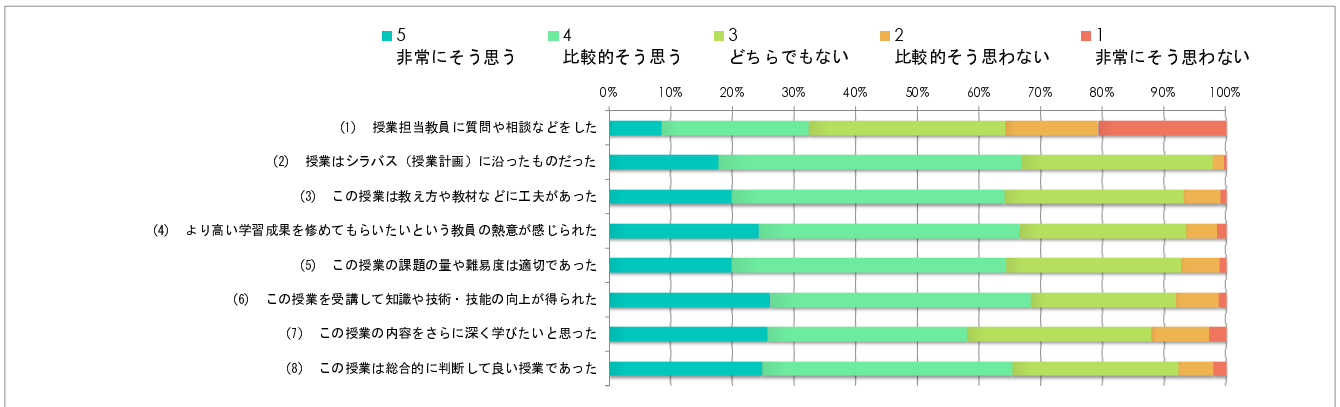
科目名	2014年度 前期 対象科目合計 (平均値)
担当者	
開講日	

履修人数	2286
回答人数	1396
回答率	61.1%

	総合領域	イラスト レーション領域	美術領域	メディア デザイン領域	空間 デザイン領域	無回答
あなたの所属している領域を選んでください	187	613	170	265	117	43

	0回(全出席)	1~2回	3~4回	5回以上	無回答
この授業の欠席回数を選んでください	938	324	57	36	40

項目別回答分布	5 非常にそう思う	4 比較的そう思う	3 どちらでもない	2 比較的そう思わない	1 非常にそう思わない	平均	無回答
(1) 授業担当教員に質問や相談などをした	119	331	443	210	288	2.8	4
(2) 授業はシラバス(授業計画)に沿ったものだった	246	681	432	24	6	3.8	6
(3) この授業は教え方や教材などに工夫があった	275	615	403	82	14	3.8	6
(4) より高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が感じられた	337	587	375	69	21	3.8	6
(5) この授業の課題の量や難易度は適切であった	275	618	395	86	15	3.8	6
(6) この授業を受講して知識や技術・技能の向上が得られた	363	586	326	97	17	3.9	6
(7) この授業の内容をさらに深く学びたいと思った	357	449	415	130	39	3.7	5
(8) この授業は総合的に判断して良い授業であった	345	563	374	80	28	3.8	5



2014年度後期 授業アンケート結果集計

科目名	2014年度 後期 対象科目合計 (平均値)
担当者	
開講日	

履修人数	2213
回答人数	1378
回答率	62.3%

	総合領域	イラスト レーション領域	美術領域	メディア デザイン領域	空間 デザイン領域	無回答
あなたの所属している領域を選んでください	193	565	165	271	119	65

	0回(全出席)	1~2回	3~4回	5回以上	無回答
この授業の欠席回数を選んでください	694	423	134	56	71

項目別回答分布	5 非常にそう思う	4 比較的そう思う	3 どちらでもない	2 比較的そう思わない	1 非常にそう思わない	平均	無回答
(1) 授業担当教員に質問や相談などをした	137	339	405	210	283	2.9	4
(2) 授業はシラバス(授業計画)に沿ったものだった	258	697	391	18	5	3.9	9
(3) この授業は教え方や教材などに工夫があった	285	613	366	91	17	3.8	6
(4) より高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が感じられた	349	579	349	67	22	3.9	5
(5) この授業の課題の量や難易度は適切であった	275	577	379	109	35	3.7	3
(6) この授業を受講して知識や技術・技能の向上が得られた	360	603	306	84	20	3.9	5
(7) この授業の内容をさらに深く学びたいと思った	352	502	366	119	35	3.7	4
(8) この授業は総合的に判断して良い授業であった	351	579	330	90	24	3.8	4

